

急ぎ過ぎだよ 人類は。

ゆるやかなネットワークを目指す

ITより
逢いてエ

雑報 縄文

いろんな考えがあるから面白い
いろんな人がいるから楽しい

No. 690

2024年11月

増刊

編集・発行 鈴木厚正

〒266-0005 千葉県緑区菅田町2-21-359

T&F 043-291-2917

も・く・じ

- 「Spring スプリング」ほか
- お便りから
- メール希望の方からのメッセージ
- 山仕事 (10月、大平)
- け・い・じ・ば・ん

ページ

2

6

17

23

26



泉ゆきを『じはいも山頭火』
(日本習字普及協会)

10月末日現在の
会員数184名

メール配信の方には
今号から送付を中止
しています。

題 字 救 佐村隆英和尚 (千葉県長柄町本光寺住職)
カ ッ ト 救 泉ゆきをさん (にっぽん箱絵の会会長)

印刷機 リソグラフ RZ 330

※この号の切手は ライフ・花。

山仕事(10月、大平)

10月23日(水)。ほんだを出る時は晴れ間もあったが、行く手には暗雲が。いつものくせで少し早く家を出る。果たして、市川駅で人身事故があり、船橋で10分ほど停車。それでも、いつものこだまに間に合った。

敷地駅で正士、久米、若林さんに迎えらる。正士さんは、このところ弱り気味とのことだったが、見た目は変らない。

雨のため、作業はなし。その代わり大切な話し合いがあった。正士さんからの提起で、体調が悪くなってきたので、今後のことを相談したいという。いつまでも元気でいてほしいのは皆同じだが、いつかに備えてだ。

はじめに正士さんから体調の報告があった。体重が減り、体が重くふらつくことが多くなった。立ちくらみがあり、息苦しさも感じるという。

その上で、今後どうするかという相談に移った。結論的な部分だけ記す。

- 猫の手クラブの活動は続ける。その場合、当地大平(おいだいら)では正士さんたちの作業は無くなり、近隣の教戸の手伝いは希望があれば継続する。
- その場合、どこを拠点とするか。久米さん、竹中さんの居る隣の森町薄場を拠点にさせていただく。
- 最大の問題は宿泊。これは久米さんが引き受けてくださることになった。面倒なことを承諾していただき、感謝します。
- これまで、寄付や作業のお礼を積み立て、猫の手基金としてきたが、この際正士さんが管理していた基金を猫の手メンバーに移管する。
- チェンソーや刈払機などは、正士さんの物と猫の手基金で購入した品とを合わせて使用してきたが、正士さんに仕分けしてもらい、その時がくれば薄場で保管してもらう。
- 近隣のお手伝いについては正士さんが意向をきいてつないでくれていたが、今後は猫の手クラブが直接連絡をとるよう、正士さんから伝えてもらう。

話し合いを終え、いつものように康江さんと久米さんが調理してくれた夕食を、お母さんも交えていただく。

(夕) 刺身(本マグロ、タコに竹中さん提供のアジとタイ)、サンマ塩焼き(ぼくは3年ぶり)、紀文はんぺんのピカタ、小松菜のシーチキン和え、もやしのキムチ、ハスとゴボウのきんぴら、そして、そうめんも久米さんのかえしでいただく。

ぼくは、夕方に引き続き、久いぶりに客間で寝る。

10月24日(木)、晴。早朝、いつものように母屋のコタツ(湯源オア)に足をつこみ新聞を読んでいると、足首のあたりでなんだか動くものがある。足を出してみると、なんとムカデ。(図は、現寸大) 危うく咬まれるところだった。

この日から、ごはんは浅井春夫さんが送ってくれた、北魚沼産のコシヒカリ。今年、正士さんの白米は大不作で収量は半分、欠米も多いという。そのせいか、とてもおいしかったよ。浅井さん、10月は猫の手に参加する予定だったが、9月からぜんそく気味で来られず。20年間、新宿百人町の町会長を続け、疲れがたまっていたらう。ぼちぼち休んで、一緒に温泉に行こうよ。

毎回は記さないが、朝食はいつも原田さんが6:30に起きて用意してくれる。そして、毎日、東江さんが山形の大粒トラスから送ってもらっている納豆と、若林さんがとり寄せてくれる産子(小豆の砂糖煮)が供される。ありがとう。

午前の作業は、二手に分かれた。家田(いえた)の田んぼ畔の草刈りは、原田、山崎、若林さんの3人で。ソバ畑の草刈りは、久米さん、山本真由美さん(磐田市の地域おこし協力隊)、竹中さんとぼく。早く終わった家田の6人組が応援してくれた。

昼、正士さんちに戻ると、長野との県境近く水窪町から昔乙女たちがご馳走を持って来てくれた。久しぶりに中谷さんが加わり、4人フルメンバーだ。

(昼) 白はぎ(粒あん、こあん、クリあん、黄粉の4種)、しめサバ、サバの竜田揚げ、サツマイモとナスの天ぷら、枝豆、インゲンのゴマ和え、ハヤトウリの漬物にナスとマカロニとレタのサラダ(これは、東江さんの作)

甘い物に目のない正士さんへ、毎回の心遣いだ。存屋千づる、熊谷道子、竹中礼子、中谷今朝菊さん、いつもありがとう。

10月は原田さんの誕生月(生年)とあって、皆で♪ハッピーバースデー

午後は、浅田さんの水田跡の草刈り。昨日の雨で水が溜まったところは、長靴をはいた原田さんと若林さんが刈ってくれた。久米さん、山本さんも参加。

途中、浅岡綾子さんが挨拶に見えた。90歳になるそうだが、背筋はシャンとのび、今でも簡単な草刈りはするという。

終って、坂上賢一さんの柿園の草刈り。たまたま娘さんが見えて、ペットボトルの白茶をいただいた。

16時に作業を終え、隣りの旧浜北市(現、浜松市)の「あらたまの湯」へ。

(夕) ガーリックシュリンプ、ナスのショウガ和え、カブのサラダにユズドリッ

シング、きのこの中華風マリネ、ナスとサツマイモの天ぷら。

お母さん、青山さん、山本さんと一緒にいただく。

今回、次の品々をいただいた。いつもありがとうございます。

- ・北海道 佐呂間町の船木航ニさんから、ホタテ貝柱にキクテゲのラー油煮
- ・尾上美智子さんから「女泣かせ」純米大吟醸 2 升
- ・浅井春夫さんから、北魚沼産コシヒカリ 10 kg
- ・内田美智子さんから、長崎のカステラ

カステラに添えたメモに「正士さん、みなさんこんにちは。私が阿寒湖に行ったのは 1957 年です。その頃、女性一人ではホテルに泊めてくれなかったのが、観光バスで隣り合わせた女性と一室をとりました。正士さんに昔の絵ハガキを沢山いただきありがとうございます。皆さんおけがありませんように。カステラは、私が長崎に行ったのではありません。スーパーの「各地の銘菓」にありました。思い出の地です」

10月25日(金)。午前、家のそば(ヨザ)の草刈り。みんなが忙しかつてかなり遅んだ。

(昼) カレーライス、パクチョイの炒め物、フライド人参、大根と柿ときのこのサラダ。

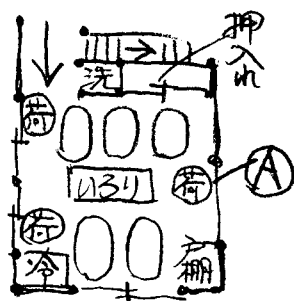
食事を終え、帰り支度を始めた時に事件が発生した。原田さんの財布が無いという。

最初に疑ったのは、昨日の「あらたまの湯」で落としたのではないかということ。

電話して尋ねたが、拾得物の届けはないという。さあ大変、財布にはお金のほかに免許証、数枚のカードが入っている。悪用されたら大変だ。警察に届け、各カード会社にカードの無効化を依頼する。これが大変だった。仲々電話がつながらない。ばくも 20 年ほど前、多摩川国ラケットクラブで、他のグループの人にテニスバッグを借りて行かれ、困ったことがある。昔も自分の荷物をあけて調べるが、無い。その間に、1 時間に 1 本の天浜線の列車が 2 本通過した。

その時、ふと気がつく。ぼくのジャンパーとズボンのポケット双方に財布が入っているのではないか。ごめん、ごめん。でも、なんでそうなったかいくら考えてもわからない。そこで、捜査に当たった検事の調書から読みとってもらうことにした。

「被告(ぼくのこと)は、一昨年からは一人で寝ていたが、今年 9 月から客間で皆と一緒に寝ることになった。客間の図は右のとおり。八畳の広さは 12 畳で、中央に畳 1 枚分の囲炉裏がある。当時、5 人が図のような形に布団を敷いて寝ていた。荷物の置き場が充分にとれず、被害者と被告は、(A) のところに互いの荷物をくっつけて置いていた。被告は常々、床に置いた帽子の中に財布や時計、ライターなどを置くくせがあった。今般、帽子は二人の荷物の中間に置いてあった。



たまたま、何かの事情で被害者の財布が帽子のそばに落ちたかしたのだろう。両名の財布は、色といい、形といい、ふくらみ具合といい酷似していた。そのため被告は自分の物と思い込み、懐中に入れたものと思料される。

無断で他人の財布を懐中に入れたことは、明らかに窃盗と言わざるを得ない。しかし、被告に犯意が認められないこと、並びに被告が第一発見者として自ら差し出したことから情状を酌量し、罪ノ等を減じ、居間かとの追放を命ずる。被告は以後、母屋で一人、寢袋にくるまって寝ること」

ともあれ、原田さんをはじめ皆さんにとんだ迷惑をおかけした。ごめんね。